

2020 年度（令和 2 年度）

事業報告書



目 次

2020年度 事業計画の方針・重点事業 概況	3

公益Ⅰ. 環境教育事業	4
1. 清泉寮やまねミュージアム	
2. フォレスターズ・スクール	
3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター (指定管理事業)	
4. 環境省日光国立公園「那須平成の森」	
5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
6. 環境研究所	
7. 地域との環境教育事業	
公益Ⅱ. 酪農事業	8
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 実験農場として	
公益Ⅲ. 研修交流事業	9
1. 清泉寮	
2. 自然学校	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業	12
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 保育事業	14
1. 保育の質の向上	
2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
3. 自然のリズムを大切にされた食事(給食)の推進	
4. 他部署(環境教育事業部及び自然学校)との協働	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 視察・研修の受け入れ	
7. 保護者や地域の方々との協働	
8. 卒園児のバックアップ	

収益Ⅰ. 製販事業	15
1. 収支動向	
2. 重点業務	
3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. ホテル事業	17
1. 清泉寮	
本部	18
企画	
団体営業	
総務	
施設	
経理	

2020 年度事業計画の方針・重点項目

公益事業に係る中長期計画に基づき、2020 年度事業計画を検討・実施します。

■公益事業アクションプラン

1. 教育機能の強化：

キープ協会全体を学校と捉えて、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出します。

2. 農場の機能強化：（一番美しい牧場プロジェクト）

景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実させます。

3. 環境保全型運営：

キープ協会全体の廃棄物量を削減します。

【収益事業重点項目】

公益財団法人としての活動を支える収益体制の確立

1. お客様を迎える体制整備：

清泉寮ジャージーハットを中心に、より多くのお客様を受け入れるために施設整備と利便性の向上に取り組みます。

2. 収益力強化：

各事業部の営業力を強化し、効率的な事業運営を目指します。

3. 人材育成強化：

社宅を整備すると共に職員教育・研修や人事制度の見直し、職員が働きやすい職場環境作りに取り組みます。

<概況>

事業計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公益事業および収益事業に運営・財務の面で大きな影響を与えた。人的な交流が主となる対面式の事業、人が集まるイベント、県をまたぐ長時間の移動を伴う研修旅行等を実施することが難しくなった。オンラインでの対応や、Go To 事業などの政策に支えられた面もあるが、活動は限られたものとなり、全体の売上も前年比 67%に止まった。

公益事業は、出来る範囲で実施可能な計画に変更した。

1.環境教育事業：with コロナ時代に対応し対面式のプログラムをオンラインに切り替えて実施するなど新たな活動形態で対応をした。

2.酪農事業：学生の研修は中止となったが、その他は例年通りの活動ができた。

3.研修交流事業：Go To トラベルを活用し、個人客を中心に活動した。

4.国際交流・地域連携事業：国際交流事業は、海外渡航が叶わなかったため、可能な国内の交流プログラムのみ行った。地域連携事業は、集客規模の大きいイベントは中止した。

5.保育事業：感染症対策をとりながら例年どおりに保育を行った。

公益 I . 環境教育事業

子どもからシニア世代までを対象とした「教育」とヤマネの総合的な「研究」を両輪として、また市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働を通して、多様な環境教育事業を展開した。

1. 清泉寮やまねミュージアム

(1) 清泉寮やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発。

(2) 2020 年度の重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力。

(3) 2020 年度の事業実績

① 「清泉寮やまねミュージアム」の管理運営

A: 展示内容の更新。

B: with コロナ時代に対応した非接触型の体験型展示への切り替え。

② 「with コロナ時代のミュージアム運営」に関する事例紹介（オンライン）

A: with コロナ対応した館内展示事例を「現場の知恵と工夫をみんなで分かち合う会」の場にて紹介。

B: 「オンラインミュージアム」の可能性をテーマにしたワークショップの実施。（清里ミーティング 2020@オンラインにて）

③ ヤマネの研究成果を活かした環境教育

A: 「フォレスターズ・スクール」と連携し、「八ヶ岳の森の達人になろう！～ヤマネ博士になろう！～」プログラムの企画実施。

B: ヤマネ博士による出張講演会の実施

(4) 開館日数、入館者等の実績

表 1 : 2020 年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2020 年度	2019 年度	増減/前年比
年間開館日数	147	291	-144 日/50.5%
入館者数	6,685	15,951	-9266/41.9%
1 日平均入館者数	45.5	54.8	-9.3/83.0%
利用団体数	17	57	-40/29.8%
団体利用者数	556	2,051	-4795/27.1%

※4/8～15 の平日と 4/16～6/5 の全期間、緊急事態宣言により臨時休館

2. フォレスターズ・スクール

(1) フォレスターズ・スクールの役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供および研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

(2) 2020年度の重点目標

1. 新規ニーズの獲得
2. 実践の見える化
3. リスクマネジメントの強化と徹底

(3) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施した。(表2参照)

表2：2020年主催事業の実績

	2020年度		2019年度	
	実施数	参加者数	実施数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	5	95	10	274
日帰り型環境教育プログラム	13	174	35	537

※コロナ影響により中止した事業：宿泊型2事業・日帰り型6事業

文科省補助事業 日帰り型10事業実施

※オンライン複数日開催事業 2事業 79名

(4) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れた。(表3参照)

表3：2020年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	山梨県内外小中学校・保育園、北杜市立甲陵高等学校
	行政関係	北杜市、
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団、ena
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、JICA、三重県緑化推進委員会
	一般	サントリー、電源開発、
合計		152事業

(5) 指導教育

職員のスキルアップのための研修を12回(24人)行った。また、5名(帝京科学大学、都留文科大学、森林文化アカデミー)のインターン生を受け入れた。

3. ～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献する。

(2) 2020年度のテーマ＝八ヶ岳におけるSDGs

(3) 2020年度の事業実績

主催事業の実施(利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログラ

ム、年度テーマに沿った講座等の各種企画事業、館内展示、映像上映等)、施設及び設備の維持管理、自然ふれあい施設としての機能(自然調査、教材開発)、周辺の文化施設や地域にあるネットワークとの連携、ボランティアとの協働、利用促進業務、自主事業(環境教育関連書籍やグッズの販売、スノーシューの貸し出し等)の実施

(4) 開館日数、入館者等の実績

表4：2020年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2020年度	2019年度	増減/前年比
年間開館日	274 ※1	291 ※2	-17/94%
入館者数	40,798	99,668	-58,870/41%
開館(1994.11)以来の 総入館者数	2,355,627	2,314,829	
1日平均入館者数	149	343	-194/43%
利用団体数	93	225	-132/41%
団体利用者数	2,093	12,086	-9,993/17%
プログラム回数・参加者数	412/6,440	435/18,019	回数-23/95%

※1 4/1～5/21 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

※2 2/27～3/31 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

4. 環境省 日光国立公園 那須平成の森

(1) 事業実績

①全体

第4期の1年目(1～4期を合わせ10年目)の業務実施、人材育成事業の実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務(自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上)、国立公園満喫プロジェクト事業への協力および実施。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に取った上での施設運営に心掛けた。

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、環境教育人材育成事業の実施、屋内外の展示制作、国立公園の環境管理

(2) 開館日数、入館者等の実績

表5：2020年度那須平成の森の実績

	2020年度	2019年度	増減/前年比
年間開館日	244	298	-54/81%
入館者数	29,812	45,739	-15,927/65%
(内、立寄り団体利用者数)	1,113	6,426	-5,313/17%
(公募)個人利用者向け利用者 負担プログラム参加者数(※1)	575(127回)	1,218(196回)	-643(-69回)/47%
(※1)=ガイドウォーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理(モニタリング)プログラム			
無料ミニプログラム参加者数 (※2)	788(195回)	2,545(447回)	-1,757(-252)/30%

(※2)=運営会設定の実施回数=170回			
(受託)団体利用者向け利用者負担プログラム参加者数	338(19 団体)	1,673(65 団体)	-1,335(-46)/20%

※環境省指示により 4/1～5/31（全日）、1/23～2/7（16日間）臨時休園

5. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
オンラインでの普及啓発、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う
民間団体の活動支援
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会2回実施、ホームページ・通信等での広報協力、クールチョイスサポーター支援事業等
- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言 380件 推進員・行政関係者・県民等件対応
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析
山梨県環境家計簿・エコメモ及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供

6. 環境研究所

- (1) 環境保全研究
主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は1参照）。
- (2) 環境教育研究
森 de リトリート・八ヶ岳キッズレンジャーガイドの編集を進め、学会などでの発表を行った。

7. 地域との環境教育事業

- (1) 地域との環境教育事業
地域有志と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレスターズ・スクール事業にて、北杜市内全園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、県民対象のオンラインイベント、親子エコエネ体験等を行った。

公益Ⅱ. 酪農事業

1. 生産農場として

(1) 牛乳生産（有機 JAS 認定）

年間平均 81 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念した。

そのうち 47 頭の搾乳を行い、総生産量 152,807 kg の牛乳を生産した。

その殆ど（151,051 kg）は群馬県前橋市にあるタカハシ乳業に出荷され、低温殺菌による製品化を経て KEEP 有機 JAS ジャージー牛乳として主に首都圏及び消費者団体に販売、高品質・安心・安全の牛乳として高く評価されている。

(2) 草地管理面積約 72 ha（採草地 45 ha、放牧地 25 ha その他 2 ha）で飼料用牧草を栽培し、乾草、サイレージ用とした。飼料の安心安全・衛生面を改善し有機 JAS 認定の牛乳生産維持に努めた。

(3) 飼育頭数及び乳量

飼育頭数	2020 年度	2019 年度	増減／前年比
成牛	55	50	5／110%
育成牛	20	31	-11／64%
哺乳牛	6	4	2／150%
合計	81	85	-4／95%
内 搾乳頭数	47	45	2
総生産量	152,807 k g	153,565 k g	-758 k g

2. 教育農場として

(1) 農業体験

教育農場としての役割を果たすべく、学生等の研修を受け入れていたが、コロナ禍（緊急事態宣言など）のため、学校関係の受け入れは中止になった。感染対策をしっかりと行い夏休み期間中清泉寮ファームショップ前でイベントを実施した。また製販事業部、企画部と連携して『冬のハイライド』を実施し、ジャージー牛を PR した。

3. 実験農場として

(1) 関係機関等との連携

酪農経営安定のため、山梨県畜産課・酪農試験場・西部家畜保健所、山梨県畜産協会・家畜改良協会・家畜共済組合・乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力。また山梨県酪農環境負荷軽減支援事業推進協議会に参加し酪農環境負荷軽減事業を実施した。

(2) 雄仔牛等の肥育

雄仔牛、交雑種など牛乳生産には向かない牛を肉牛として肥育し、製販事業部の食材としての適合性等を試みた。

(3) 防疫対策

牛舎中心に農場施設の消毒等に努めた。

公益Ⅲ. 研修交流事業

1. 清泉寮

公益財団法人キープ協会の中核施設としての使命と役割を果たすとともに、事業の継続・発展のためにも財政健全化に寄与する運営を目指した。しかし、昨年度末からの新型コロナウイルス感染拡大に伴い学校団体受入を中心に甚大な影響を受け、その対策に多くの資源を傾注したこともあり、計画した事業の大部分が未達成となった。

- (1) コロナ禍において求められる感染対策について、行政や関係機関からの通達や要請に従い取り組んだ。
 - ① 山梨県の設定した感染症防止対策に合致した施設に交付される「やまなしグリーンゾーン認証」を9月に取得し、利用するお客様への安心の付与と職員の意識の向上を図った。
 - ② 県の主催する「感染症対策セミナー」に職員を参加させるとともに、多くの職員にその内容を共有するための講習を行い、上記①の実効性を高めた。
- (2) 計画していたイベントやコンサートの多くを中止した。宿泊のお客様を対象に人数を絞って4回のミニコンサートを実施し、好評を博した。
- (3) 研修利用に際して求められる設備・食事・プログラム・スタッフなど、受入体制を整え、学校、企業を始め、多くの研修団体の獲得を図ったが、下表の通りほとんどがキャンセルとなった。
- (4) 個人宿泊者に対し「ポール・ラッシュ記念館」「清泉寮やまねミュージアム」「山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」の3つのミュージアムへの入館・利用を促進した。
- (5) 地域生産者との連携を深め、できる限り地元食材を利用し、既成の加工品を使用しない手作り料理の提供を継続して行った。地産地消の継続や食の安全といった観点から利用者や生産者から大きな支持を得た。

(団体主要数値)

団体利用実績数値	2020年度	2019年度	増減/前年比
宿泊団体数	37件	208件	-171件/17.8%
宿泊団体利用人数	1,243人	13,505人	-12,262人/9.2%

2. 自然学校

自然体験を重視し、団体対応利用に特化している。

- (1) 通年営業の清泉寮自然学校、夏季(7月~9月)営業のキャンプ場と、2つの施設を管轄し、団体の受入を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、利用者が大幅に減少し、休業を余儀なくされた。
- (2) 施設のバリアフリーの構造、地元農家と連携した安心・安全で健康的な食事の提供、低廉な価格設定といった特長を生かし、詳細なアレルギー対応・幼保・学校・福祉・研修といった団体の要望を出来る限り受け入れた体験プログラム等に力を入れ、清泉

寮と共に稼働・施設の運営の効率化を図った。

- (3) 「森のようちえん」「やまもりキャンプ」といった看板企画をはじめ、食や自然をテーマとした主催キャンプ・「梅畑」「味噌づくり」などは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1年間中止を余儀なくした。
- (4) 長坂子ども食堂の休業に伴い乳製品の提供を1年間中止した。

(団体利用実績)

	2020年度	2019年度	増減/前年対比
宿泊団体数	36件	190件	-154件/18.9%
自然学校	34件	150件	-116件/22.7%
キャンプ場	2件	40件	-38件/5.0%
宿泊団体利用者数	1,926人泊	14,128人泊	-12,202人泊/13.6%

(主催企画実績) 一年間中止

	2020年度	2019年度	増減/前年対比
主催企画数	0企画/0回	7企画/25回	-25回/0%
参加者数	0人泊	1,288人泊	-1,288人泊/0%

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の創設者であるポール・ラッシュの業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、財団の広報・教育機能の一端も担い活動した。

- (1) ポール・ラッシュ精神の継承と伝道および、業績や歴史を紹介する通常の開館業務のほか、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続を発展的に進め、収蔵資料や美術品の保存・管理業務を行った。同時に、国内外でのラッシュ関連の資史料の検索、発見、収集に努めた。これらの活動は、次年度以降も継続する。
- (2) 季節ごとの企画展・特別企画展は新型コロナウイルス対策の閉館により一度の開催となった。
- ①12月～3月：県内社会福祉施設の入寮者の作品を取り上げた企画展「青い鳥成人寮のうつわ」展を開催した。
- (3) 博物館施設として、県・市や対外的な機関との連携や、with コロナ時代に即した「おうちでミュージアム」についてメディアやSNSを使い、広報活動を行った。
- (4) 教育普及プログラムの開発と実施を計画し、催行した。
- ①「聖書を学ぶ」(秋期に月一度開催の聖書勉強会)
- ②「ロザリオづくりワークショップ」(キットでの提供)
- ③「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」(キットでの提供)
- ④「古写真を用いたフットパス」(秋期に開催)
- ⑤「ミュージアムツアー」(学校・企業団体様向け)
- ⑥立教学院とポール・ラッシュを学ぶ講義開講 (秋期、立教大学での講義)

⑦「アウトリーチ活動」(1月3日に東京ドームで開催された「ライスボウル」へ出張パネル展示)

※2020年度は「ポール・ラッシュの手記を読む」(月一度開催の朗読と講義の講座)「ソイルアート・ワークショップ」(フィリピンからのアーティスト招聘事業)は中止。ワークショップはキットでの提供に変更した。

(5) インターン生の受入 <中止>

①Berea 大学(アメリカケンタッキー州)

②コーディリエラ・グリーン・ネットワーク(フィリピン)

(6) ポール・ラッシュ奨学金

①立教大学でボランティア活動を行う学生1名に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付した。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2020年度	2019年度	増減/前年比
年間開館日数	135日	313日	-178日/43.1%%
入館者数	3,257人	11,167人	-7,910人/29.2%%
1日平均入館者数	24.1人	35.6人	-11.5人/67.7%
団体数	15件	87件	-72件/17.2%
団体入館者数	600人	3,480人	-2,880人/17.2%

※以下の期間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い臨時休館

4/6(月)～7/3(金)

7/4(土)～7/22(水) (平日のみ開館)

1/12(火)～3/5(金)

3/8(月)～3/19(金) (平日のみ開館)

公益Ⅳ. 国際交流・地域連携事業

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成および地域貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO等の多様なコミュニティと連携しながら、事業内容の充実と発展に取り組んだ。また、各国の新型コロナウイルス感染拡大状況を注視し、交流事業の実施における安全性の確保と配慮に努めた。

(1) 北杜市米国ケンタッキー州姉妹地域間交流事業 【北杜市受託事業】 <中止>

例年、下記の北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業は中止されたが、交流関係者との連携を図った。

- ① 北杜市代表団米国ケンタッキー州マディソン郡親善訪問事業
- ② 北杜市中学生米国ケンタッキー州マディソン郡ホームステイ派遣事業
- ③ 米国ケンタッキー州マディソン郡代表団北杜市親善訪問事業
- ④ 日米文化交流員派遣・受入事業
- ⑤ 子ども絵画交流

(2) 北杜市中学生海外交流事業【北杜市受託事業】 <中止>

隔年で北杜市による中学生のカナダ派遣・交流事業の実施に協力しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業が中止された。

(3) 国内外のインターン生の受入れ

国内の青少年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図った。新型コロナウイルスの影響により、海外インターン生の受入を中止したが、関係者との連携・コミュニケーションを図った。

- ① 海外インターン生（5～12月） <中止>
- ② 国内インターン生（8～3月） <一部受入> 8名

(4) 主催英語プログラムの実施

国際交流をキーワードに、地元地域の子どもたちへ国際理解のための英語プログラムを実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地域英会話プログラム4～8月、及び「清里イングリッシュキャンプ」を中止した。

- ① 地域英会話プログラム（4～8月<中止>、10～12月、1～3月<週2回実施>）
- ② 清里イングリッシュキャンプ（6～7月、11～12月 <計6回中止>）

(5) 北杜市立甲陵高校 SSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業への協力

甲陵高校の設定した課題「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」をテーマに、英語による環境教育プログラムを提供した（9月）。また環境教育事業部が日帰り授業を実施した（4～9月）。

(6) 絆プロジェクト（ピース・フィールド・ジャパン主催）の受入れ（8月） <中止>

例年、イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

(7) 北フィリピン青年育成事業への協力 <中止>

例年、現地の環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により受入を中止した。

(8) 交流団体・公的機関との連携 (通年)

(9) ウェブサイトを通じた情報発信 (通年)

2. 地域連携事業

(1) ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2020 の開催 <中止>

ポール・ラッシュ祭～八ヶ岳カンティフェア～2020 は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

(2) 地域連携業務

① フードバンク山梨と連携し、貧困な環境に置かれた子供たちの支援に取り組んだ。

② 清里聖アンデレ教会聖堂内の施設整備に協力した (畳の張替え、絨毯新調)。

③ 八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地元各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の面から地域連携に取り組んだ。

公益V. 保育事業

キリスト教の精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森のほいくえん」のコンセプトのもと、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動を重点的に行った。

1. 保育の質の向上

「キリスト教保育」は週に一度は教会での礼拝を行い、職員が礼拝での聖話を子どもたちにするために、司祭との勉強の時間を持ち、祈る事の大切さを学んだ。「森の保育」「野外におけるリスクマネジメント」は園内研修として、フィールドでの研修を含め、12回の研修を行った。

2. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5歳児を二つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合える場作りとして行った。0・1・2歳児も年齢別では無く、成長に合わせて二つのグループに分けての活動を行った。「森の保育」は一年を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

3. 自然のリズムを大切に食事(給食)の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。また、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。

アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。

4. 他部署(環境教育事業部及び自然学校)との連携

「森の楽童」の実施については環境教育事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用し整備を行った。

5. 園舎内及び周辺環境整備

職員・保護者、地域の方々と環境整備の日を設け、定期的に環境整備を行った。

6. 視察・研修の受け入れ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した

7. 保護者や地域の方々との協働

保護者主催の「森の楽童」は年に6回行い、フィールドの貸し出しと、人材協働を行った。

「水曜文庫」(文庫活動)は新型コロナウイルス感染拡大の影響により貸出は1回。

8. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止した。

収益 I. 製販事業

キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

1. 収支動向

(金額：千円)

収入部門	2020 年度	2019 年度	増減／前年比
売店	174,320	292,950	-118,630/59.5%
ソフトクリーム	91,302	146,386	-55,084/62.4%
飲食	52,369	78,373	-26,004/66.8%
合計	317,991	517,709	-199,718/61.4%

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大幅な収入減少となった。

Go To トラベル実施期間中は例年を上回る実績だったが、中断後は厳しい状況が続いている。

最終的には前年比 61.4%という結果に終わった。

2. 重点業務

2020 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- 各店舗における新型コロナウイルス感染防止対策
- やまなしグリーンゾーン認証取得
- 清泉寮ジャージーハットを中心とした各店舗間の連携
- 清泉寮ジャージーハットにおけるお客様の利便性と安心・安全性の向上
- 清泉寮周辺および店舗周辺の環境美化活動
- 接客・サービスの質を高める職員研修

3. 通常業務

継続的に実施した通常業務は以下の通りである。(重複する重点業務を含む)。

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット (清泉寮パン工房含む)・清泉寮ファームショップ・清泉寮新館売店を運営
- やまなしグリーンゾーン認証に基づく新型コロナウイルス感染防止対策
- ジャージー牛乳から生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開

- 付加価値を高めたオリジナル雑貨商品の製作
- 各店舗コンセプトの明確化による複数店舗利用促進
- 各種インフォメーションの充実による複数店舗利用促進
- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 飲食部門に於いては「人と地球の健康」をキーワードとした食の安全と環境への配慮を強く意識したメニューを展開
- 清泉寮ジャージー牧場産の牛肉を使用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売（別表参照）
- ギフト需要に対応した自社通販および百貨店等の産直販売
- 顧客満足度を高める接客・サービスの向上
- 子供向け設備・サービスの充実
- 景観に配慮した各店舗周辺的环境整備
- ガーデン管理および環境美化による癒しの空間を提供
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- 収入に応じた支出管理の徹底
- POSシステムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理

4. 出張販売

場所	事業名	期日
DCMくろがねや稲城押立店	出張販売	11/7～12/6
広島三越	広テレ！全国うまいもの博	11/13～11/23

	2020年度	2019年度	増減／前年比
出張販売件数	2件	11件	-9／18.1%
ソフトクリーム売上	2,328千円	16,445千円	-14,117千円／14.2%
物販売上	420千円	2,182千円	-1,762千円／19.2%
合計（税別）	2,748千円	18,627千円	-15,879千円／14.8%

収益Ⅱ．ホテル事業

1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、一般のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受け入れについても積極的に行う計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い大きな影響を受け、計画した事業のかかなりの部分が未達成となった。

- (1) 山梨県設定の感染症防止対策に合致した施設に交付される「やまなしグリーンゾーン認証」を9月に取得し、消毒、検温、換気、三密回避などの対策を徹底し、利用者と職員の安心・安全と公衆衛生の確保に注力した。
- (2) 学校団体を中心に稼働が大きく落ち込む中、宿泊にあたって大きな移動を伴わない県内および隣接県からの利用者呼び込む「地元プラン」や、Wi-Fi環境の整ったコテージを活用する「テレワークプラン」、癒しを求めるニーズに応える「プライベートガイドプラン」など、宿泊稼働に繋がる施策を実施し、新たな顧客の掘り起こしを図った。
- (3) 国や県・市の施策「Go To トラベル」「Go To イート」「やまなしグリーンゾーン宿泊割」「北杜市心がつながる応援券」などへ参画し、利用促進を図ることで宿泊や飲食の稼働増に繋げた。
- (4) 企画部と連携し、Webのリニューアル等により宿泊利用に繋げた。季節ごとのポスター掲示強化、地域への紙媒体広告、インターネットやSNSによる情報発信を強化することで、清泉寮の利用拡大はもとより、公益財団全体の施設、商品、サービスの利用促進に繋げた。

本部

企画

1. 企画関連業務

イベント・季節の催し等年間計画表を作成し、運用管理した。
夏・冬ギフトセット販売強化の事務局として活動した。

2. キープ協会全体の情報発信体制の強化

(1) マスコミや各種メディアへの発信

<対応実績>

カテゴリ	2020年度	2019年度	増減/前年比
大手観光情報誌(るるぶ、まっぷるなど)	22件	30件	-8/73.3%
その他情報誌(ローカル誌、フリーペーパーなど)	38件	39件	-1/97.4%
情報 Web サイト、アプリなど	39件	36件	3/108%
新聞(一般、県内紙など)	26件	24件	2/108%
TV 番組(在京キー局)	9件	7件	2/128%
TV 番組(ローカル)	15件	9件	6/166%
BS・CS、ケーブル TV 番組	5件	2件	3/250%
ラジオ番組	5件	3件	2/166%
商材撮影(カタログ、ミュージックビデオなど)	14件	3件	11/466%
広告出稿	12件	10件	2/120%

(2) キープ協会内の案内ツール・標識(誘導・施設名)等のサイン整備

3. 募金の管理業務

(1) 「フレンズ・オブ・キープ」会員組織活動

① 会報「清泉寮通信」の作成と発信

<会員実績>

- ・キープ協会維持会員(個人)・・・297名(前年対比+1名)
- ・キープ協会維持会員(法人)・・・19社(前年対比±0社)
- ・清泉寮クラブ会員・・・619名(前年対比+2名)

② メールマガジンの作成と発信

団体営業部

新規営業対象先、エージェント、既存利用団体の情報を集約し、新規・リピーター利用に繋げる営業活動を行った。

総務

1. 人事管理業務、福利厚生、給与、労務管理

2. 評議会・理事会等公益財団法人の会議の管理・運営

3. 職員の教育訓練

- (1) 各種職員研修は、新型コロナウイルス感染防止のため、必要最小限の実施とした。
- (2) 新型コロナウイルス感染症対策として行政より提示された「雇用調整助成金」や、感染防止を目的とした物品購入に伴う補助金等の申請業務を統括した。

施設

公益財団法人の施設・建物の維持・管理・整備業務を行った。

経理

公益財団法人の経営管理・決算業務(年次・月次)、日常の個別取引管理・処理業務、資金繰管理業務を行った。